



■清水まつり

身近すぎて気づかない 水の大切さ

つくば市の子供たちと美郷町の子供たちを見ていると、水の使い方には違いを感じます。私たちの日常生活では蛇口をひねればいつでもおいしい水が出てきます。では、つくば市の生活はどうでしょうか。都会に暮らす人たちは飲料水を買って飲むことが多いようです。このような生活の違いが水に対する意識の違いを生んでいるのかもしれない。

昔と現在では生活環境が変わっています。自動車を持つ家が増え、ほとんどの道路が舗装されました。水害を防ぐため、川や水路はコンクリートで固められています。住み良い環境を作るために必要なことではありますが、これらが結果的に地下水や湧水に影響を及ぼしてしまつたようです。水が地表から地下へ浸透する隙間が少なくなつてしまつたのです。また、水を使う量も増えました。たくさん水を消費する生活様式が大量の地下水を汲み上げています。

世界ではコップ一杯の水で一日を生活している国もあるようです。私たちは一見、水に恵まれた生活を送っているように思えますが、「水はタダ」という意識はいけません。

きれいな水を守るため わたしたちにできること

現在、七滝保安林から出る水の量は以前とほとんど変わりなく、環境汚染などの影響も受けていないそうです。この状態を維持するためには、あまり人の手を加えないで自然のバランスが崩れないようにすることが大切だと考えています。植樹したばかりのブナは根を踏まれると木が弱つてしまします。山はブナだけで成り立っているわけではありません。そこには草があり、腐葉土が積み重なり、微生物があつて、はじめて山に水が保たれます。そして、その山がきれいな水を生んでくれます。



■昨年の植樹の様子

しかし、「人の手を加えないこと」と「放っておくこと」は違います。環境保全のためには一人ひとりの意識の高揚が大切です。これは七滝山に限って言うことではありません。「環境保全」と言うと、とても難しいことのように思われるかもしれませんが、決して難しく考える必要はありません。とても身近な事柄だと思います。例えば、生活排水やゴミの問題です。洗剤や油で汚れた水は自然に浄化されにくいのです。汚い水を出さないことやゴミを減らすなど、身近な生活のあり方が環境の保全につながります。そして、なにより大切なのは自分たちが暮らす環境に関心を持つことだと思います。ご飯粒一つでも残さないで食べる。これは自然の恵みに感謝した表れだと思います。水資源も同じことなのです。私たちの生活を支えてくれる地下水を大切に、以前からここにある豊かな環境に感謝する気持ちを忘れないこと。「美しい郷」に住む私たちの使命ではないでしょうか。



■旭町涵養池
六郷地区には4つの人工涵養池があり
積雪時に地下へ水を浸透させている。



ブナの木に聴診器を当てて地中の水を吸い上げる音を聴く子供たち

つくば市・美郷町水環境学習交流

茨城県つくば市の子どもたちと美郷町の子どもたちがお互いに行き来して、現地の水環境を学ぶ「つくば市・美郷町水環境学習交流」が平成11年から続けられています。

生活排水により水質が悪化した霞ヶ浦に面するつくば市と地下水資源が豊富な美郷町。昨年美郷町を訪れたつくば市の小学生は「森や水がきれいだった。ここで勉強したことをつくば市で活かしたい」と語ります。また、つくば市を訪問した美郷町の小学生は「水の汚れに驚いた。水を大切にしなければいけないと思った」と美郷町との環境の違いに驚いた様子でした。

このように異なった水環境を体験することで、水への関心や地域の自然に興味を持つきっかけになっているんですね。

※今年度は8月上旬から中旬にかけて交流を行う予定です。こちらの様子は次号以降の広報誌でご紹介します。

きれいな水資源を守ろう '10七滝「水の森」植樹事業

美郷町の大切な水資源を守る七滝の水源涵養林を保全するためブナの苗木150本の植樹と育樹を行ないます。

日程 ● 7月14日(水) 午前10時～午後2時

場所 ● 水源涵養林のある七滝山の中腹

参加者 ● 美郷町内の小学4年生児童と保護者

※当日は午前9時および午前11時から各1時間ほど七滝山の林道の車両交差が困難となります。皆様のご協力をお願いします。

問い合わせ ● 農政課 農業振興班 ☎0187-84-4908



この事業には「秋田県水と緑の森づくり税」が活用されています